

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500063		
法人名	株式会社 瑞穂介護センター		
事業所名	グループホームあいる弥富(きんぎょ)		
所在地	愛知県弥富市森津9-14-8		
自己評価作成日	令和4年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2397500063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせた野菜や花を育てています。水やりや収穫にも参加しています。収穫した野菜を使って食事レクレーションを企画したり、干し柿、梅ジュースづくりなど、季節を味わえる生活を意識しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が続いていることで、利用者の外出の機会が困難な状況が続いているが、例年は、職員間で外出先の検討を行いながら、様々な場所へ外出する機会がつけられている。日常的にもホームが田園地区に立地していることで、利用者とホーム周辺を散歩をする機会がつけられており、利用者の外出や身体機能の維持にもつながっている。なお、ホームの隣に開設している別法人(株式会社中部グループ)のグループホームについて、今年度から当ホームの運営法人(株式会社瑞穂介護センター)の代表者が、当該法人の代表取締役として就任してグループ会社に移行したことで、運営法人の幹部職員を通じた事業所間の情報交換や交流の機会がつけられており、職員の勤務体制、介護記録のシステムの統一、災害時の連携等、各事業所の特性を活かした柔軟な連携にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「全てはご利用者の為に」という理念を頭に入れて日々ご入居者と関わっています	基本理念でもある「全てはご利用者の為に」を支援の基本に考えており、管理者からも職員間で理念を共有する働きかけが行われている。また、職員一人ひとりが目標をつくりながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で、外部との関わりがほとんどありません。時々、隣の畑の管理をしている方と野菜作りについてお話をすることはあります	感染症問題が続いていることもあり、近隣の幼稚園との交流も困難になっているが、幼稚園の行事の際には、当ホームの駐車場を提供する等、可能な範囲での交流を継続している。また、ボランティアの方の受け入れは徐々に再開している段階でもある。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、可能な範囲で交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流はほとんどありません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は全て書面で行っています ご意見等は書面でお伺いし、議事録として回答させていただいています	会議については、書面による実施が続いており、会議の関係者に書類の配布を行い、運営状況の報告が行われている。会議を開催する際には、隣接している運営法人の関連事業所と連携しながら実施しており、地域の方として幼稚園の園長の参加も得られている。	書面による開催が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	会議体が中止になっており、日常的なやりとりはありません。必要に応じて連絡を取っています エスケープ事故があった時には、捜索に協力頂きました	市内の介護事業所が集まる連絡会が開催される際には、ホームからも職員が参加する機会をつくり、ホームの運営への反映につながっている。また、地域包括支援センターとも情報交換等の機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に委員会を開催し、現状の振り返りや注意喚起をしています。施錠に関してはエスケープ事案が発生した為、ご家族の了承を得て最小限で施錠している部分もあります	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わないように職員間で連携した見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施しており、職員への注意喚起を行ったり、振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に委員会を開催し、現状の振り返りや注意喚起をしながら虐待が行われない様意識しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を実施しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施できています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話でご意見を伺った時には会議等で共有し、反映できる様事は対応しています	現状、家族との交流が困難になっているが、可能な範囲で面会の機会をつくっている。家族からの要望等については、管理者の他にも、運営法人の幹部職員を明記する取り組みが行われている。また、毎月のホーム便りには、利用者毎の報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談を実施しています	毎月の会議や日常的な職員間での意見交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人の幹部職員に報告し、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境については職員の意見を参考に可能な範囲で整備しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修を実施しています 資格取得のための費用負担をしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍の為、社外の人間との交流の機会はほとんどありません 連絡会議が再開されれば参加したいと思っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	モニタリングや日々の関わりの中で思いを汲み取るよう意識しながらコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアを変更する必要がある際にはご家族へ相談と報告をしています また、面会時やお電話でもご意見等伺いするようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としているケアが必要なタイミングで提供できる様リーダーを中心に見極めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の立場から1日の生活リズムを考え、出来る事はなるべくやっていたきながら自分で生活している、と感じてもらえるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアの変更に際してはご家族へも相談し、一緒に考えていく、というスタンスを大事にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの感染者数の動向を見ながら、なるべく面会して頂ける環境を維持できる様努力している	現状、外部の方との交流が困難であるが、利用者の中には携帯電話も活用しながら、外部の方との交流を継続している方もいる。行きつけの美容院についても、家族の協力も得ながら継続している方もいる。身内の方の葬儀や法事等を通じた外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日頃の観察から相性を見極め、なるべく仲の良い入居者で過ごせる様配慮している レクレーションを通して他者との関わりを持てるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	出来ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いを汲み取り、毎月のユニット会議で共有し、ケアプランに反映しています	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスの機会をつくり、利用者や家族からの意向等を検討し、定期的なアセスメントの実施や日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやご家族からの聞き取り、ご本人とのコミュニケーションから把握するようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や会議などで入居者の状況を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議やモニタリングを実施し、必要なケアをケアプランに反映するようにしている	介護計画は、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常の記録については電子記録に移行しているが、申し送りやユニット会議等も行いながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケア記録に残しています その他、連絡ノートや申し送りで情報共有し、必要に応じてケアプランに反映させています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な範囲で本人の希望に添える様努力しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	クリスマス会にはボランティアの方に来て頂いたり、ご入居者のご家族によるピアノ演奏会を行いました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診、週1回の歯科往診を行っています。 必要に応じて臨時で往診もお願いしています	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もおり、家族の支援も得ながら関係を継続している。また、看護師がホームに勤務しており、協力医との連携や医療面での支援につなげている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の体調の変化は看護師と連携しながら必要な処置を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連絡を取りながら、入院・退院がスムーズに行われるよう調整しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体状況が著しく低下した時にはご家族に今後の対応についての意思確認をし、ご家族の望む形で終末期を迎えられるよう支援しています	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように、協力医や看護師とも医療面での連携も行いながら、ホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、利用者や家族の意向等にも合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを用意し、職員がいざという時にも対応できるようにしています 年に1回救急法の研修も実施しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時に備え、隣接の施設と合同で定期的に訓練をしています	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害が想定される地域でもあり、水害想定訓練については隣接する運営法人の関連事業所との合同訓練として実施する取り組みも行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	当ホームに隣接しているグループホームが運営法人の関連事業所に移行したこともあり、両事業所間での夜勤職員の連携強化等、今後に向けた災害対策にもつながる取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーに配慮した関わり方を意識しています	基本理念の内容を実践できるように、日常の支援が職員都合にならないように、職員による利用者への対応や言葉遣い等、管理者からも注意喚起等が行われている。また、職員の接遇にもつながる研修を実施し、職員の振り返りにつなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	押し付けや強制をしない様本人の意向を聞く様意識しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設のスケジュールはあるが、その日の気分や体調に合わせて柔軟に対応するようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で選べる方にはお任せしています ただ、季節に合った服装ではない方もいます すので対応に困る事もあります		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者のリクエストに合わせた食事レクリエーションを企画したり、誕生日会にはご本人のリクエストに応えた食事やおやつを準備しています	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。おやつ作りについては、ホーム職員で行われており、利用者もできることに参加している。季節等にも合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は毎日記録に残し確認できるようにしています 食形態や水分摂取方法など、個々に合わせて調整しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを日課にしています 訪問歯科も定期的に往診してくれています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしています	排泄記録を排泄表にも記録を残し、職員間で情報の共有を行い、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、布パンツでの生活を継続する等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し、自然排便出来る様働きかけています しかし、薬に頼る部分も多くなっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日、入る順番も決まっています 1番に入りたい方が多く、不公平のないように順番を決めています。入浴日ごとに順番がわかるよう掲示してあります	利用者が週3回の入浴ができるように、職員で声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。ユニットによりリフトの設置が行われていることで、利用者の身体状態に合わせた入浴支援も行われている。また、季節等にも合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調や気分で日中にも臥床をすることがありますが、夜間の睡眠の妨げにならない様配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	まずは誤薬のないように与薬ルールを徹底してもらう事を意識しています 薬の目的、症状の変化などは管理者、看護師、リーダーがまずは把握をし、必要に応じて職員に周知しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	昔からやっていた家事等出来る範囲でお手伝いしていただいています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の中、外出は花見や初詣のみです時々散歩に行ったり、花や畑の水やりをして頂いています もう少し散歩に行く機会を増やしたいと思っています	感染症問題が続いている状況であるが、ホーム近隣が田園地域でもあることから、利用者がホームの近隣を散歩する等の支援が行われている。季節等にも合わせた外出行事の取り組みも徐々に再開しており、花見や初詣に出かける機会がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が困難な事、トラブル防止のため、所持している方はいません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の希望があれば電話の取次ぎをしています 年賀状を出したり、希望があればお手紙を出すことも支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた壁飾りを作り、季節感を味わえる空間を演出しています	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境が整えられている。リビングや通路等の壁面には、季節等にも合わせた飾り付けや利用者の作品等を掲示し、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでテレビを見たり、お話をしたり、思い思いに過ごして頂いています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具は馴染みの物を持ち込んで頂いています レクリエーションで作った作品を飾ったり個性のある居室となっています	居室については、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や趣味の物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに居室づくりが行われている。居室にベッドとクローゼットが設置されていることもあり、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレに張り紙をして自分で場所を見つけられる工夫をしています		